

無形文化財の保存・活用に関する調査研究 (①無01-12-2/5)

目 的

わが国の無形文化財、並びに文化財保存技術の伝承実態を把握し、その保護に資するため、伝承の基礎となる技法・技術の実態や変遷の調査研究、及び資料の収集を行い、現状記録の必要な対象を精査して記録作成を行う。

成 果

1. 山口鷺流狂言の伝承について、無形文化遺産部が所蔵する記録をもとに鷺流狂言保存会等が所蔵する楽譜と比較検討を行い、明治以降の伝承の在り方について考察した。成果は第7回公開学術講座で公表し、それに基づく論文を報告書に掲載した。
2. 土佐山内家宝物資料館所蔵資料の内、能管・龍笛についてX線調査に基づく講演を行った。大連で活躍した能楽師の所蔵していた小鼓胴について調査し、公開シンポジウムで発表を行った。
3. 日本で開発された長時間レコード（フィルモン音帯）の継続調査を行い、新たに現物確認されることとなった音帯について再生とメディア転換を試み、その収録内容を確認した。
4. 連続口演の機会が激減している講談について、一龍齋貞水師による『難波戦記』『雲霧五人男』、神田松鯉師による『徳川天一坊』『幡随院長兵衛』の実演記録を作成した。また、伝承が変化しつつある宝生流謡曲について、近藤乾之助師他による実演記録「定家」を作成した。和泉流狂言については、佐藤友彦師による秘曲「花子」の記録作成を行った。
5. 12月8日、東京国立博物館平成館大講堂において「山口鷺流狂言の伝承を考える」と題して、第7回無形文化遺産部公開学術講座を行った。

論文

- ・高桑いづみ「下ゲゴマ試論」『能と狂言』10 能楽学会 12.4
- ・高桑いづみ「山口鷺流狂言の小舞謡—無形文化遺産部所蔵「山口鷺流小舞謡」の記録をめぐって—」『無形文化遺産研究報告』7 12.3
- ・菊池理予「日本における染織技術保護の現状と課題」『第35回文化財の保存と修復に関する国際研究集会「染織技術の伝承と継承」報告書』12.11

発表

- ・高桑いづみ「大連で鳴り響いた鼓」公開シンポジウム「海外で鳴り響いた邦楽」大江能楽堂 12.9.17
- ・高桑いづみ「X線調査から判明した能管・龍笛の製作方法」山内家資料修理説明会 土佐山内家宝物資料館 12.11.11
- ・高桑いづみ「無形文化遺産部所蔵記録『山口鷺流狂言の小舞謡』の意義」第7回公開学術講座 東京国立博物館 12.12.8
- ・飯島満「東京文化財研究所所蔵アナログ音声資料 そのメディア転換をめぐって」平成24年度第3回総合研究会 東京文化財研究所 12.11.9

研究組織

○宮田繁幸、高桑いづみ、飯島満、菊池理予、綿貫潤、星野厚子、佐野真規（以上、無形文化遺産部）、今岡謙太郎、永井美和子（以上、客員研究員）

第7回無形文化遺産部公開学術講座（①無01-12-2/5の一部として実施）

12月8日、東京国立博物館平成館大講堂において、山口鷺流狂言保存会を招聘して公開学術講座を行った。タイトルは「山口鷺流狂言の伝承を考える—東京文化財研究所無形文化遺産部所蔵記録をめぐって—」。入場者数243名。

プログラム

講演Ⅰ 稲田秀雄（山口県立大学教授）「山口鷺流狂言の歴史と位置」

実演Ⅰ 宮城野（萩大名）

講演Ⅱ 高桑いづみ（東京文化財研究所）「無形文化遺産部所蔵記録『山口鷺流狂言の小舞謡』の意義」

実演Ⅱ 不毒

実演 山口鷺流狂言保存会

無形民俗文化財研究協議会（①無02-12-2/5の一部として実施）

無形文化遺産部では、無形民俗文化財の保存・継承に寄与することを目的として、毎年無形民俗文化財研究協議会を開催してきた。第7回にあたる本年度は、昨年度からの継続テーマとして「記憶・記録を伝承する—災害と無形の民俗文化」を取りあげた。災害という局面において無形の文化を守り伝えるために「記録」をどのように捉え実践するのか、報告・総合討議を行った。その成果は報告書として刊行した。

日時：2012（平成24）年10月26日（金）10：30～17：30

会場：東京国立博物館平成館

参加者：160名

テーマ：記憶・記録を伝承する—災害と無形の民俗文化

内容：

【発表】

飯坂真紀（ふるさと岩手の芸能とくらし研究会）「津波から100kmのまちで」

小谷竜介（宮城県教育庁文化財保護課）

「被災地における民俗調査の在り方—震災前からの調査と震災後からの調査—」

阿部武司（東北文化財映像研究所）「記録DVD『3.11東日本大震災を乗り越えて』について」

大山孝正（福島県文化財センター白河館まほろん）

「民俗資料・記録の活用に向けて—福島県の被災地から—」

長坂俊成（（独）防災科学技術研究所）

「被災者と人類のための災害復興アーカイブ—311まるごとアーカイブスの取り組み—」

【総合討議】

上記報告者と下記コメンテーター、コーディネーターによる総合討議を行った。

コメンテーター：久保田裕道（儀礼文化学会）、齊藤裕嗣（東京文化財研究所）

コーディネーター：今石みぎわ（無形文化遺産部）

総合司会：宮田繁幸（無形文化遺産部）